

稲作情報 第7号

◆今年も斑点米カメムシ類は、多くの地点で確認され、発生量も多くなっています。
斑点米被害を防ぐため、畦畔や雑草地等の草刈りを徹底してください。
◆「てんたかく」の生育は、ほぼ平年並となっています。防除は適期に実施しましょう。

1 カメムシ対策 — 一斉草刈り運動期間：7月1日～10日（7月7、8日は『一斉草刈り日』）

- ・ 畦畔や雑草地の草刈りは7月10日までに終え、刈取った草は用水路に流したり、燃やしたりしない。
- ・ 出穂期以降に草刈りを行う場合は、地域一斉防除に合わせて行う。

畦畔・雑草地のカメムシ調査結果（6月26日 管内53か所調査）

斑点米カメムシ類確認地点率 90.6% (H29: 92.5%)
1か所あたり平均頭数 9.24頭 (H29: 9.98頭)

＜参考＞稲を加害する主なカメムシ



アヒゲホミドリカスミカメ



アカジカスミカメ



トゲシホカメムシ

大麦跡の管理について

- ・ ほ場内で多くの斑点米カメムシが確認されています。
- ・ 収穫後の状態で放置すると、カメムシの発生源となり、周辺ほ場の被害を助長します。
- ・ 大麦跡は、園芸作物や緑肥の作付、耕起等を行い、適正に管理してください。

2 早生の防除 （営農日誌P65～68参照）

防除時期 (目安)	対象病害虫	使用農薬・散布量(10a 当たり)		
		粉 剤	液 剤	微 粒 剤
穂ばらみ期 7月6～10日頃	紋枯病 注) 苗箱施薬にエバーゴ ルワイド箱粒剤を使用 した場合は散布不要	バリダシン粉剤DL 4kg	バリダシン液剤5 1000倍液150ℓ	(粉剤または液剤で散布)
穂揃期 7月23日頃	いもち病 カメムシ類 ウカ類	ビームキラップジョーカー粉剤DL 4kg	ビームキラップジョーカー フロアブル 1000倍液150ℓ	ビームスタークル微粒剤 F 3kg
傾穂期 7月30日頃	カメムシ類 ウカ類・ツマグロヨコバイ	スタークル粉剤DL 3kg	スタークル液剤 10 1000倍液150ℓ	キラップ微粒剤 F 3kg

※時期の目安は、田植日：4月29日、幼穂形成期：6月27日、出穂期（予想）：7月20日を基準。

ほ場周辺の住民の皆様へ

早生品種の基本防除について、上の表の通り計画しています。
周辺に飛散しないよう、十分注意して農薬散布を行います。散布期間中は洗濯物、戸締り等でご不便をおかけします。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

3 コシヒカリの管理 (営農日誌P62 参照)

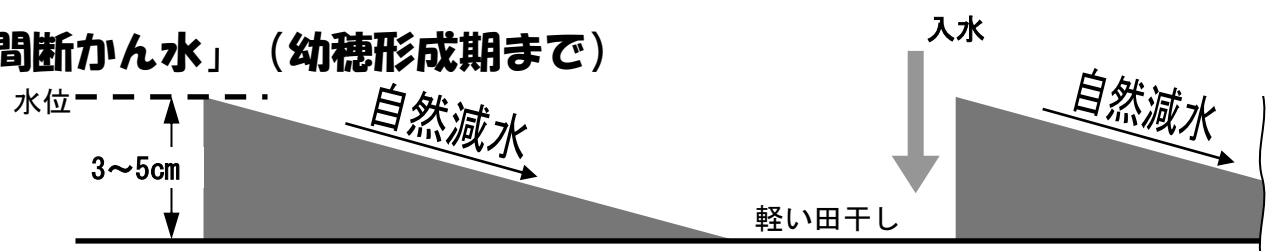
- 暑い夏が予想されています。気象変動に強い稲体を目指しましょう。
- コシヒカリは、近年よりやや早めに生育しており、草丈はやや短いですが、茎数は多くなっています。
- 幼穂形成期までは「間断かん水」を継続し、『ほ場に足跡が軽くつく程度の土の硬さ』まで土壌を確実に固めましょう。
- 幼穂形成期からは、土壌の乾きすぎに注意して、湛水と足跡に水が残る程度の湿潤状態を繰り返す「飽水管理」を行い、干し過ぎによる葉色の急激な低下を防ぎましょう。

表 標準コシヒカリの生育状況 (6/28現在、となみ野標準田10カ所平均)

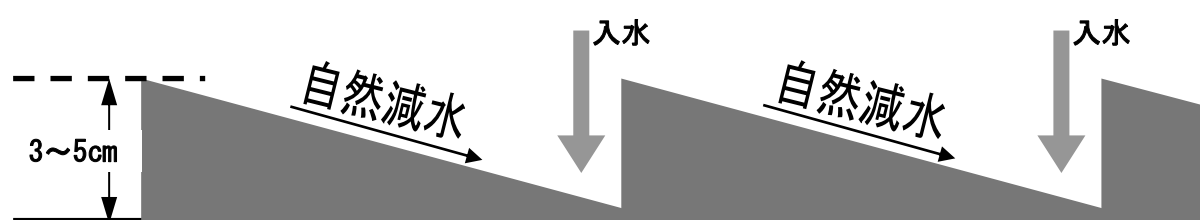
	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)
H30年	5/14	50.2	587	10.8	4.3	(7/10)
H29年	5/15	43.7	611	10.3	4.4	7/11
近年値	5/13	53.4	507	10.6	4.3	7/11

「間断かん水」と「飽水管理」のイメージ

○ 「間断かん水」(幼穂形成期まで)



○ 「飽水管理」(幼穂形成期～出穂期)



足跡に水が残る程度



【お問い合わせ先】 砺波農林振興センター 農業普及課砺波班 32-8113
 となみ野農業協同組合 経済部生産企画課 32-8619
 営農センター 32-8623

[【einoubu@ja-tonamino.or.jp】](mailto:einoubu@ja-tonamino.or.jp)

又は、最寄りの統合支店、営農購買課へお問い合わせ下さい。

支店名	TEL	支店名	TEL	支店名	TEL
中央支店	32-3107	北部支店	32-2754	庄西支店	33-4130
庄東支店	37-0047	福野支店	22-3018	井波中央支店	82-1552
稲種センター	82-0117	資材配送センター	32-5440	あぐり館	32-5440

コシヒカリの穂肥については「稲作情報第8号」でお知らせします。